

褒め言葉の受け取り方 —大学生と小学生の比較—

Is Praising between Girls and Women Different?

(2017年3月31日受理)

國田 祥子

Shoko Kunita

Key words : 褒め言葉, 大学生, 小学生, 女性, 思春期

要 約

褒め言葉の受け取り方は、様々な要因によって変わってくると考えられる。本研究では、女子大学生と女子児童を対象に「きれい」「かわいい」という褒め言葉の受け取り方が、受け手の発達段階および送り手との関係性によって異なるのかを比較検討する。調査は、本学の女子大学生125名および岡山市内の小学5、6年生女児146名を対象に、質問紙で実施した。家族以外の親しい男性、親しい女性および親から言われて嬉しい褒め言葉を、「きれい」「かわいい」「どちらも気分は良くならない」から1つ選択してもらい、「きれい」「かわいい」を選択した場合は、その理由を褒めの評価的機能を示す3項目と情動的機能を示す3項目および「その他」の計7項目から選択してもらった。その結果、男性からおよび女性からについては小学生の方が大学生よりも「かわいい」と言われると嬉しいと答えた者が少なく、「どちらも嬉しくない」と答えた者が多かった。親からについては小学生の方が大学生よりも「きれい」と言われると嬉しいと答えた者が少なく、「どちらも嬉しくない」と答えた者が多かった。嬉しい理由は男性から「かわいい」と褒められた場合においてのみ小学生と大学生で違いが見られ、小学生の方が大学生よりも評価面からの理由を回答した者が多く、情動面からの理由を回答した者が少なかった。以上のことから、受け手の発達段階や送り手との関係性によって褒め言葉の受け取り方が異なることが示された。

問題と目的

褒められることは、基本的に嬉しいことのはずである。だが、状況によっては嬉しくない場合もあるのではないだろうか。また、たとえ嬉しくても、状況によってその理由が異なることはないだろうか。褒め言葉の受け取り方は様々な要因によって変わってくると考えられる。例えば、かわいい、きれいといった言葉は、狭義には異なる意味を持つ言葉であるが、現在では若い女性の容姿を褒めるという類似した文脈で用いられることが多い。しかしこのような類似した目的で使われる褒め言葉であっても、状況によって受け取り方が異なることはないだろ

うか。受け手の発達段階や送り手との関係性、更にどのような場面で発言されるかによっても、褒め言葉の受け取り方は変わってくるだろう。

青木(2004)は子どもの「ほめ」の受け取り方に関する研究を行っている。彼女は年長児および小学1年生とその保護者にインタビューを行った結果、同じ褒め言葉でも場面によって機能が異なることが示されたと報告している。すなわち、食事の後片付けを手伝うなどのお手伝い場面では、褒め言葉はもっと頑張ろうなど、行動の基準や目標を示す評価的機能を持っていた。しかし、例えばそれまでできなかった逆上がりが出来ようになったというような達成場面では、褒め言葉は自分を認めてく

れたと思うなど、満足感や効力感を与える情動的機能を持っていたと述べている。

しかし、青木(2004)では、場面以外の影響は検討されていない。そこで本研究では、女子大生および女子児童を対象に、類似した文脈で用いられる褒め言葉であっても、言葉によってその機能に違いがあるのか、また受け手の発達段階や褒め言葉の送り手によってそうした機能が異なるのかを比較検討する。類似した文脈で用いられる褒め言葉としては、若い女性に対する褒め言葉としてよく使われる「きれい」と「かわいい」を用いる。広辞苑第六版(新村, 2008)によると、「きれい」とは「①服装が派手で美しいこと, ②(花やかに)美しいこと」とされている。また「かわいい」とは「①いたわしい, ふびんだ, かわいそうだ, ②愛すべきである, 深い愛情を感じる, 小さくて美しい」とされている。「きれい」は外に表れる美しさのことであり、「かわいい」は受け手の心情を表す言葉ではあるが、現在一般的には女性の容姿に対する一般的な褒め言葉として同様に使用されることが多いと考えられる。

方 法

1. 調査参加者

本学に所属している女子大学生125名(平均年齢18.41歳)および岡山市内の小学校5,6年生の女子児童146名(平均年齢11.13歳)を対象とした。

2. 質問項目

(1) 小学生用質問紙

家族以外の男の子, 家族以外の女の子, 親からのそれぞれに言われて嬉しい褒め言葉を「きれい」「かわいい」「どちらも気分は良くならない」から1つ選択してもらった。さらに、「きれい」もしくは「かわいい」を選択した場合, その理由を送り手ごとに尋ねた。理由については青木(2004)を参考に, 褒めの評価的機能を示すと考えられる3項目「もっと努力しようと思える」「自分に自信がつく」「また頑張ろうと思える」と, 情動的機能を示すと考えられる3項目「単純に嬉しい」「好かれていると感じる」「自分を認めてくれたと思う」および「その他」の計7項目の選択肢を用意した。理由については複数選

択可とした。最後に, フェイス項目として性別と年齢を回答してもらった。

なお, 小学生用質問紙では全ての漢字にふりがなをふった。

(2) 大学生用質問紙

基本的に小学生用質問紙と同様であった。ただし, 「家族以外の男の子」を「親しい男性(家族以外)」に, 「家族以外の女の子」を「親しい女性(家族以外)」に書き換えた。また, 大学生用質問紙ではふりがなはふらなかった。

3. 手続き

大学生については, 授業時間中に質問紙を配布し, その場で回答してもらった。小学生については, 小学校に質問紙を持参し, 児童への配布と回収を担当教師に依頼した。

結 果

記入漏れがなかったものを有効回答とし, 分析の対象とした。分析対象者は, 大学生117名(平均年齢18.42歳), 小学生137名(平均年齢11.13歳)であった。

1. 異性からの褒め言葉

男性からの褒め言葉について χ^2 検定を行ったところ, 小学生と大学生の間に有意な差が見られた ($\chi^2(2) = 68.25, p < .05$) (Figure1-1)。残差検定の結果, 5%水準で小学生の方が大学生よりも「かわいい」と言われる方が嬉しいと答えた者が有意に少なく, 「どちらも嬉しくない」と答えた者が有意に多いことが示された。

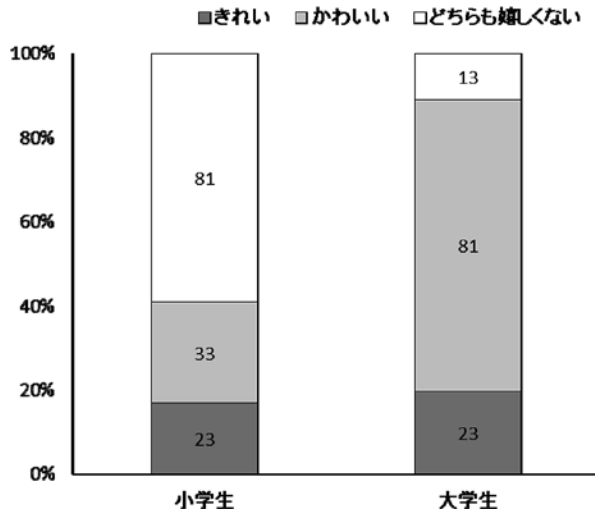


Figure 1-1 男性から言われて嬉しい褒め言葉

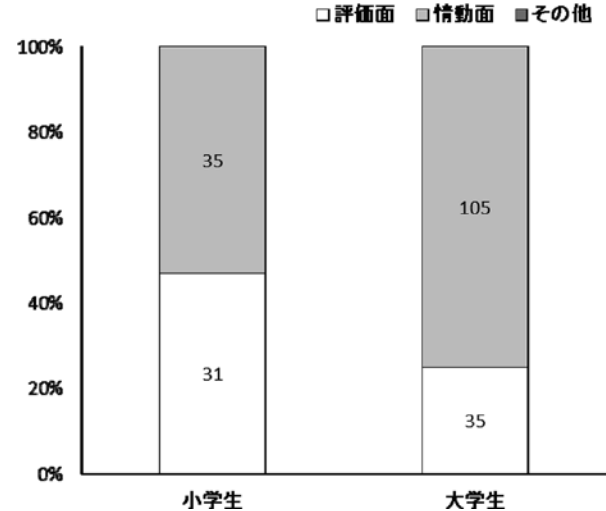


Figure 1-3 男性から「かわいい」と言われて嬉しい理由

「きれい」と言われる方が嬉しいと回答した者を対象に、その理由について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差は見られなかった($\chi^2(1)=0.44$, $n.s.$) (Figure1-2)。小学生と大学生のいずれも、情動面からの理由を回答した者が多かった。

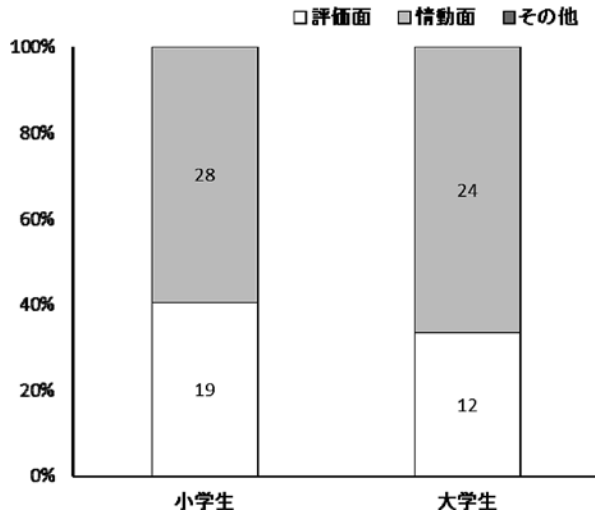


Figure 1-2 男性から「きれい」と言われて嬉しい理由

次に、「かわいい」と言われる方が嬉しいと回答した者を対象に、その理由について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差が見られた($\chi^2(1)=9.94$, $p<.05$) (Figure1-3)。小学生の方が大学生よりも評価面からの理由を回答した者が有意に多く、情動面からの理由を回答した者が有意に少ないことが示された。

2. 同性からの褒め言葉

女性からの褒め言葉について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差が見られた($\chi^2(2)=48.57$, $p<.05$) (Figure2-1)。残差検定の結果、5%水準で小学生の方が大学生よりも「かわいい」と言われる方が嬉しいと答えた者が有意に少なく、「どちらも嬉しくない」と答えた者が有意に多いことが示された。

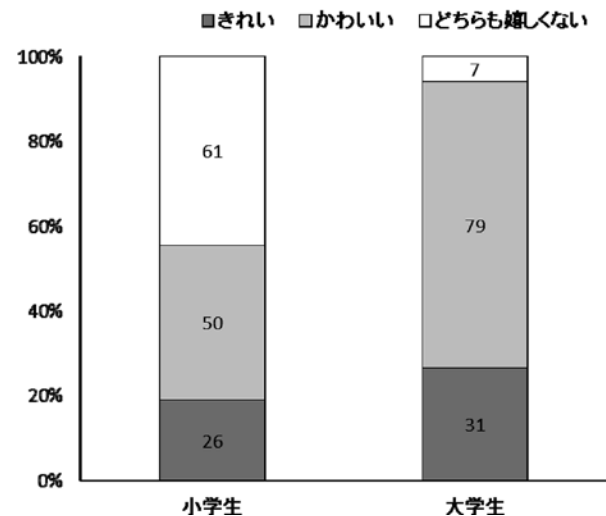


Figure 2-1 女性から言われて嬉しい褒め言葉

「きれい」と言われる方が嬉しいと回答した者を対象に、その理由について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差は見られなかった($\chi^2(1)=1.09$, $n.s.$) (Figure2-2)。小学生と大学生のいずれも、評価面からの理由と情動面からの理由が同程度見られた。

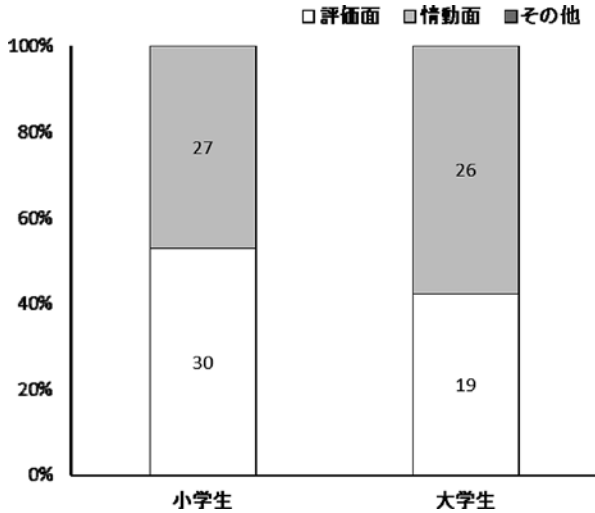


Figure 2-2 女性から「きれい」と言われて嬉しい理由

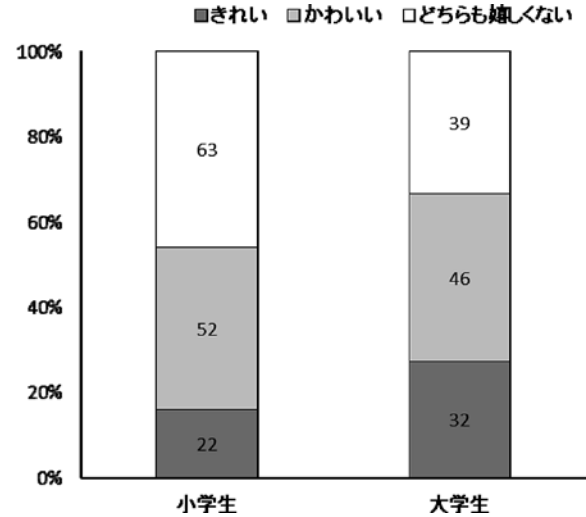


Figure 3-1 親から言われて嬉しい褒め言葉

次に、「かわいい」と言われる方が嬉しいと回答した者を対象に、その理由について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差は見られなかった($\chi^2(1) = 0.73, n.s.$) (Figure2-3)。小学生と大学生のいずれも、情動面からの理由を回答した者が多かった。

「きれい」と言われる方が嬉しいと回答した者を対象に、その理由について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差は見られなかった($\chi^2(1) = 1.14, n.s.$) (Figure3-2)。小学生と大学生のいずれも、評価面からの理由と情動面からの理由が同程度見られた。

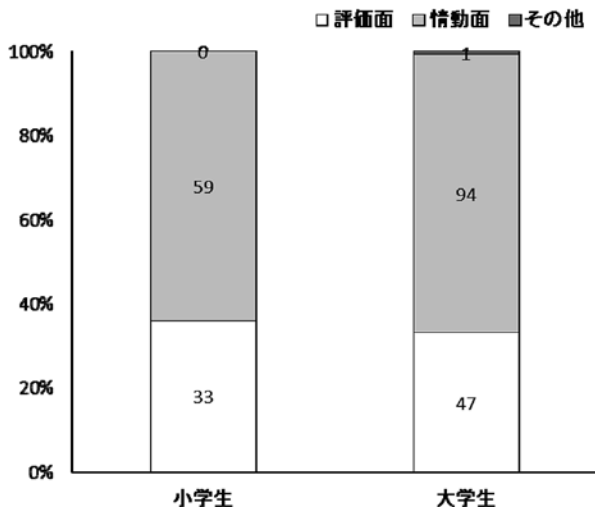


Figure 2-3 女性から「かわいい」と言われて嬉しい理由

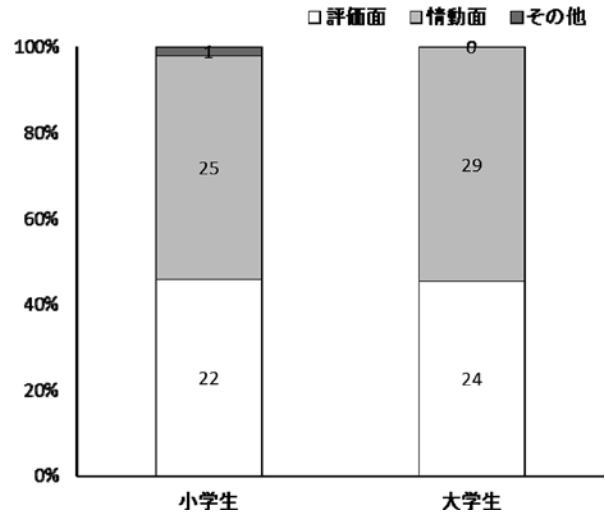


Figure 3-2 親から「きれい」と言われて嬉しい理由

3. 親からの褒め言葉

親からの褒め言葉について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差が見られた($\chi^2(2) = 6.33, p < .05$) (Figure3-1)。残差検定の結果、5%水準で小学生の方が大学生よりも「きれい」と言われる方が嬉しいと答えた者が有意に少なく、「どちらも嬉しくない」と答えた者が有意に多いことが示された。

次に、「かわいい」と言われる方が嬉しいと回答した者を対象に、その理由について χ^2 検定を行ったところ、小学生と大学生の間に有意な差は見られなかった($\chi^2(1) = 1.36, n.s.$) (Figure3-3)。小学生と大学生のいずれも、情動面からの理由を回答した者が多かった。

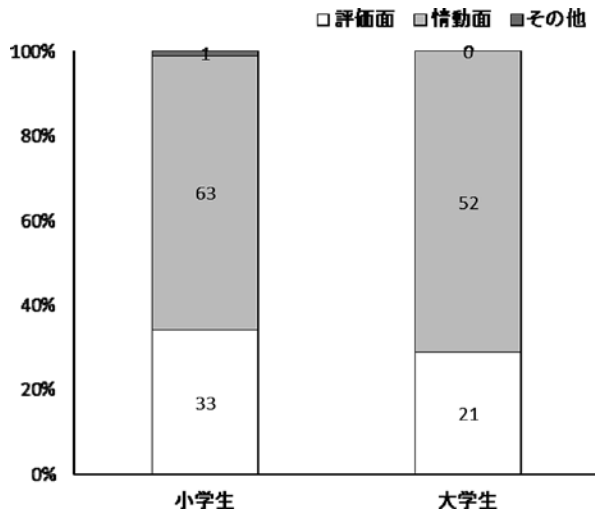


Figure 3-3 親から「かわいい」と言われて嬉しい理由

考 察

本研究は、女子大生および女子児童を対象に、類似したシチュエーションで用いられる褒め言葉であっても、発達段階によってその機能に違いがあるのか、また褒め言葉の送り手によって機能が異なるのかを検討することを目的として行った。

1. 異性からの褒め言葉について

男性から言われて嬉しい褒め言葉について尋ねたところ、小学生の方が大学生よりも「かわいい」と答えた者が少なく、「どちらも嬉しくない」と答えた者が多かった。小学生では「どちらも嬉しくない」と答えた者が最も多かったことから、思春期にさしかかったばかりの女子児童にとって、異性からの容姿についての褒め言葉は「きれい」であれ「かわいい」であれ素直に受け入れにくいことが示唆された。

一方、大学生では「かわいい」と答えた者が最も多かった。受け手が持つ「きれい」と「かわいい」に対する感覚の違いとして、言葉に対する親近感の違いが考えられる。一般的な若い女性にとって、「かわいい」は「きれい」よりも身近な褒め言葉であると言えるだろう。このことから、異性から褒められる場合、女子大生はより身近な褒め言葉の方が嬉しいと受け取りやすいことが示唆された。

次に、褒め言葉を嬉しいと回答した者にその理由を尋

ねたところ、「きれい」と言われる方が嬉しいと答えた者は、小学生と大学生のいずれも情動面からの理由を答えた者が多かった。このことから、異性からの「きれい」という褒め言葉は発達段階に関わらず、満足感や効力感を与える情動的機能を持ちやすいことが示唆された。

また、「かわいい」と言われる方が嬉しいと答えた者は、小学生の方が大学生よりも評価面からの理由を選択した者が多く、情動面からの理由を選択した者が少なかった。小学生では評価面からの理由と情動面からの理由が同程度見られたが、大学生では情動面からの理由を答えた者が多かった。このことから、類似した文脈で用いられる褒め言葉であっても、言葉によって機能に違いがあることが示された。より身近な褒め言葉である「かわいい」は、「きれい」よりも目標としやすいのではないだろうか。そのため、容姿を意識しやすくなる思春期にさしかかったばかりの女子児童にとって、行動の基準や目標を示す評価的機能を持ちやすかったと考えられる。一方、既に思春期を過ぎた女子大生では、異性からの「かわいい」という褒め言葉は「きれい」と同様、情動的機能を持ちやすいことが示唆された。

2. 同性からの褒め言葉について

女性から言われて嬉しい褒め言葉について尋ねたところ、男性からの場合と同様、小学生の方が大学生よりも「かわいい」と答えた者が少なく、「どちらも嬉しくない」と答えた者が多かった。小学生では「どちらも嬉しくない」と答えた者が最も多かったことから、同性からであったとしても、女子児童にとって容姿についての褒め言葉は素直に受け入れにくいことが示唆された。

一方、大学生では「かわいい」と答えた者が最も多かったことから、同性からであっても、女子大生にはより身近な褒め言葉の方が嬉しいと受け取られやすいことが示唆された。

次に、褒め言葉を嬉しいと回答した者にその理由を尋ねたところ、「きれい」と言われる方が嬉しいと答えた者は、小学生と大学生のいずれも評価面からの理由と情動面からの理由が同程度見られた。男性からの場合はいずれも情動面からの理由が多かったことから、同性からの「きれい」という褒め言葉は発達段階に関わらず、異性からの場合よりも評価的機能を持ちやすいことが示唆

された。

また、「かわいい」と言われる方が嬉しいと答えた者は、小学生と大学生のいずれも情動面からの理由を答えた者が多かった。このことから、同性からの「かわいい」という褒め言葉は発達段階に関わらず、情動的機能を持ちやすいことが示唆された。

3. 親からの褒め言葉について

親から言われて嬉しい褒め言葉について尋ねたところ、小学生の方が大学生よりも「きれい」と答えた者が少なく、「どちらも嬉しくない」と答えた者が多かった。小学生では「どちらも嬉しくない」と答えた者が最も多かったことから、親からであったとしても、女子児童にとって容姿についての褒め言葉を素直に受け入れるのは容易ではないことが示唆された。

一方、大学生においては、「きれい」「かわいい」「どちらも嬉しくない」が同程度選択されていた。男性および女性からの場合と比較して「かわいい」が少なく「どちらも嬉しくない」が多くなっていたことから、女子大生にとって、家族からの容姿に対する褒め言葉は他人からの褒め言葉よりも素直に受け入れにくいことが示唆された。

次に、褒め言葉を嬉しいと回答した者にその理由を尋ねたところ、「きれい」と言われる方が嬉しいと答えた者は、小学生と大学生のいずれも評価面からの理由と情動面からの理由が同程度見られた。女性からの場合と同様、親からの「きれい」という褒め言葉は発達段階に関わらず、異性からの場合よりも評価的機能を持ちやすいことが示唆された。

また、「かわいい」と言われる方が嬉しいと答えた者は、小学生と大学生のいずれも情動面からの理由を答えた者が多かった。このことから、親からの「かわいい」という褒め言葉は発達段階に関わらず、情動的機能を持ちやすいことが示唆された。

4. 結論

小学生においては、送り手が誰であっても容姿に対する褒め言葉を嬉しくないと回答する者が多かった。思春期という時期は自己への関心が強まる時期であり、容姿への関心も高まる一方で、他者からの評価に対しては反

発心が芽生える時期でもある。そうした他者への反発が、こうした結果につながったのかもしれない。

一方、大学生においては送り手が誰であっても「かわいい」の方が「きれい」よりも嬉しいと回答する者が多かった。「かわいい」という言葉の方が「きれい」という言葉よりも身近に感じられるため、受け入れられやすかったのかもしれない。また大学生では、男性や女性からの褒め言葉よりも親からの褒め言葉を嬉しくないと回答する者が多かった。既に思春期を過ぎた女子大生は、他者から評価されることに対してむやみに反発することはあまりないと考えられる。しかし、それでも世代が違う親からの容姿に対する褒め言葉は素直に受け入れることが難しいのかもしれない。

次に、「かわいい」と「きれい」の機能を比較すると、「かわいい」という褒め言葉は、小学生においてのみ、送り手によって機能が異なることが示唆された。すなわち、同性や親からの場合は情動的機能を持つことが多いが、異性からの場合は評価的機能を持つことも増えていた。思春期は容姿だけでなく、異性を意識し始める時期でもある。そうした時期の女子児童にとって、異性からの容姿に対するより身近な褒め言葉は、評価的機能を持ちやすくなるのではないかと考えられる。

一方、「きれい」という褒め言葉は発達段階に関わらず、送り手によって機能が異なることが示唆された。すなわち、異性からの場合は情動的機能を持つことが多いが、同性や親からの場合は評価的機能を持つことも増えていた。同性の友人や親は、異性の友人よりも容姿に対する評価がシビアであると感じられることが多いのではないだろうか。そのため、異性からの褒め言葉よりも同性や親からの褒め言葉の方が、評価的機能を持ちやすかったと考えられる。「きれい」は「かわいい」よりも身近な言葉ではない分、そうした差が明確に見られたのかもしれない。

以上のことから、類似した文脈で用いられる褒め言葉であっても、更には全く同じ褒め言葉であっても、受け手の発達段階や送り手との関係性によって、受け取り方や機能が異なることが示唆された。

引用文献

- 青木直子(2003).「ほめ」の受け止め方に関する研究—
就学前後におけるポジティブフィードバックの意
味の相違— 心理発達科学専攻修士学位論文概要,
51, 251-252.
- 新村 出(編) (2008). 広辞苑第六版 岩波書店

